

# 原発に頼らない地域経済をどう再生していくか にいがた自治体研究所が柏崎市で原発フォーラム開催

柏崎刈羽原発フォーラムが24日、柏崎市で開催され、参加してきました。主催はにいがた自治体研究所で、参加者は220人近くになりました。フォーラムには柏崎市や隣接自治体を中心とした県内だけでなく、東京、京都、奈良など県外からも参加者がありました。

今回のフォーラムのテーマは、「原発に依存しない地域経済の再生」です。第一部では地元3人の方が原発をどう考えるかについて発言しました。第二部は講演、京都大学の岡田知弘教授と京都府立大学の川瀬光義教授が講演しました。

このうち岡田教授は「原発に頼らない地域経済の再生」と題して、原発をなくすこととした後の地域経済をどうしていったらよいかについて



て柏崎刈羽地域の現状にふれながら語りました。岡田教授は、「柏崎地域経済に占める原発関連企業の割合は最大で1割くらい」と「柏崎地域には近

世、近代から培われてきた産業や多様な機械金属企業群の集積、農産物を活用した食品加工業、海の資源を生かした観光、スポーツ等があり、原発に頼らなくてもいい地域資源と、それを活用した再投資主体が豊富に存在する」「原発の利益は短期的だが、破壊は長期的だ。原発の廃棄が地域の持続的発展の前提となる。地域内の豊富な資源を活用し、地域内経済循環をはかりながら地域内投資力を高めること、所得向上と就業機会、人口定着を行える地域づくりが必要だ」とのべ注目されました。

第三部は講演の感想などを含む意見交換、討論(写真)。不動産業を営む高橋優一さんは、「柏崎にも良いところがいっぱいあることが分

かって胸がいっぱいになった。テレビの『梅ちゃん先生』で、新幹線の早い走りに耐えられない部品づくりのことが出ていたが、原発は裾野が狭い産業だと思った」と講演の感想をのべました。陶芸家の吉田隆介さんも、「もともと柏崎の良い面を産業と結び付けることが大切だ」と語りました。専業農家で農業委員会会長をされている山波家希さんは、「講演の前にこれだけ調査されたことに感謝する。(柏崎地域経済の)弱まってきた体力を農業が土台になって元気づけることが出来ればいいと思っっている」と決意をのべ、拍手を浴びました。

## 今年のイモは肌が白くてきれい

恒例の自然薯掘りが吉川区中谷内の圃場で25日、行われました。オーナーのみなさんは約70人。この日は家族連れでの参加が多く、百数十人の人たちにぎわいました。安塚区のお寺さんなど私の顔見知りの人も何人かおられ



ました。みんなソバを打つ人でした。JAえちご上越の営農指導員によると、今年には猛暑の影響で、「長さがあっても太さがあっても長さが少ない。そういった自然薯が多い

が、肌が白くてきれいで掘り始めたから、オーナーのみなさんの顔は笑顔になりました。思ったよりもいいイモがいたからです。



大島区田麦でいただいた料理

12月議会の日程 会議の開始時間はいずれも午前10時からです。ぜひ傍聴にお出かけください。

月日	会議名	会議室名	備考
12月3日(月)	本会議	議場	提案説明、総括質疑(橋爪)
12月4日(火)	文教経済委員会	第1委員会室	付託案件審査
12月5日(水)	厚生委員会	第1委員会室	付託案件審査
12月6日(木)	建設企業委員会	第1委員会室	付託案件審査
12月7日(金)	総務委員会	第1委員会室	審査(橋爪)
12月10日(月)	本会議	議場	一般質問
12月11日(火)	本会議	議場	一般質問
12月12日(水)	本会議	議場	一般質問
12月13日(木)	本会議	議場	一般質問
12月17日(月)	本会議	議場	付託案件採決

居間にいた私も妻も次男夫婦もびっくりしました。母が居間の障子戸を開けたとたん、廊下に落花生がたくさん広げてあったのが目に入ったからです。しかも立派なものばかりです。まさか、雪深い上越の地でこんなにも落花生がとれるなんて……。

この日は一月の下旬の三連休初日でした。金沢市から帰省した次男夫婦を迎えるために母は、お昼の食事としていつものように赤飯を炊き、自慢のコンニャク料理やキャベツの炒めものなどを用意していました。食べ始めてからしばらくの間、みんながほとんどおしゃべりもせず食べていました。それだけ美味しかったのでしょうか。「ササゲ、いつもよりもいっぺ入れたがど」という母の言葉が出てから、ようやくおしゃべりが始まりました。「これ、ばあちゃんのコニャクだよね」「いい味だよね」「これはキャベツ、それとも白菜かな」そんな声を聞きながら母はうれしそうでした。赤飯は残さずきれいに食べてもらったし、味の良さをほめる言葉も聞こえてくる。作ったものとしては最高の気分だったと思います。

私たちがテーブルの上のものを一通り食べたところで、母は、腰をあげました。母の頭の中には次男夫婦に食べさせたいものがまだいくつあつたのです。まずは友達からももらったという甘柿を五、六個台所から持ってきて、次男の前に置きました。柿を食べるというわけです。

次男は最初、もう食べられないよという顔をしていましたが、母の気持ちに少しでも応えようと柿を手にしました。

次男が包丁で皮をむき始めたら、みんなの目が次男の手元に向きました。包丁を動かさずに柿を動かしてヘタをすつと取る。皮を切れ目なしでうすくむく。手のひらの上で十字に切れ目を入れ、種を出しやすいうようにと横にも切れ目を入れて皿にポンと出す。どこで覚えたのか、包丁の使い方がじつに見事でした。

母が次男夫婦に食べてもらいたいと持ってきた食べ物は居間の南側の廊下にもありました。障子戸を開けると、そこには丸々としていて、しかも大きい落花生が畳二枚分も広げてあつたのです。

母は落花生をステンレスの鍋の中に次々と入れ、台所に持って行きました。最近、わが家でも始めたのですが、落花生をゆでて食べようというのです。

しばらくして、ゆであがった落花生を母はテーブルの上に持ってきました。皿を敷いて、その上に水きり用のザルに入った落花生を置くと、まだ少し湯気が立っています。妻や次男夫婦がめずらしそうに皮をむき、「なるほどね。これなら散らからないね」とか「時間がたつと色が変わっていく」などと言って感心していました。

落花生は千葉県の特産です。亡くなった叔父が習志野市に住んでいたこともあって、小さな頃から落花生を贈ってもらい食べてきました。妻が「お母さん、千葉へは行ったことあるの」と訊くと、母は待っていましたとばかりに昔話を始めました。

叔父の所へ行った母は、落花生がハサにかけて干してあつたことなどを紹介した後、何を思ったか叔父の家で出してもらった御馳走のことを語りました。「肉のつかいのを食べさせてもらって、刺身をいっぺ食いすぎたらご飯食わんねくなっちゃった」という言葉を聞いてみんな大笑いしました。

孫夫婦を迎えて母は大満足でした。赤飯もコンニャク料理も、そして最近覚えた落花生のゆでたのもみんな喜んで食べてもらえたのです。いかつたね、ばちや。

## (仮称)厚生産業会館問題でも意見交換

「住民自治と合併問題を考える会」(佐藤忠治代表)と議員有志との懇談会が22日、直江津の学びの交流館でありました。懇談会には考える会のメンバーや会員外の市民など

10数人が参加、議員は私を含めて7人の参加でした。

この日の懇談では総合事務所の産業建設グループの集約問題、市の財政見通しと職員給与の在り方、建設事業の取組などで意見交換しました。

総合事務所の在り方問題では私も発言、「市の提案では、災害の初動対応を弱める、住民サービスの低下につながる、都市内分権に逆行するなどの問題点がある」と指摘しました。

印象に残ったのは、何人も会員さんが今回の機構見直しの後に総合事務所をなくして木田庁舎への集中をすすめるようなことが起きるのではないかと不安視していることでした。

(仮称)厚生産業会館、新水族館建設は本当に必要かという議論も活発に行われまし



た。会員のみなさんは全体として反対の雰囲気強く、議員側は賛成と反対あるいは慎重派に分かれました。市街地に住む議員の中にもはっきりと「一言で言って厚生産業会館は必要ありません」と言う人もいて、注目されました。また、新水族館の入館者見込みはあてにならないという議員もありました。私は厚生産業会館については高田区地域協議会の「基本構想案は不相当」という答申を尊重すべきという見解です。(仮称)厚生産業会館よりも市民の暮らしを守る方が先です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	11月21日(水)	11月28日(水)
上越南消防署	0.030	0.036
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.040	0.047
東頸消防署	0.047	0.040
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.043	0.046